

■ 発行人 飯山市農業委員長 松永晋一  
■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会



菜の花公園

飯山市農業委員会事務局  
飯山市役所農林課内  
電話：0269-62-3111 (内線261)  
FAX：0269-62-6221

15.5  
No.212

がんばっています！  
— No.35 —



やよい農園を営む  
滝沢篤志さんご夫婦



## やよい農園のあゆみ

太田の北条で百姓をしてい  
る夫と、仕事もしつつ米粉マ  
イスターとして米粉のお菓子  
などを作る加工所を切り盛り  
している妻とで営んでいるの  
が「やよい農園」です。

私たちは2011年5月に  
結婚をしました。翌年9月に  
なべくら高原森の家で、屋外  
結婚式をしました。自分の  
作った野菜を参列者と供に料  
理し、食べました。飯山でで  
きる楽しさを多くの人に知っ  
てもらおう素晴らしい機会とな  
りました。

しかし、その年は東日本大  
震災があり、日本中が混乱し  
ました。物流が止まり、スー  
パーに行っても食べ物が少な  
いという経験をし、自分の食  
べ物を自分で作ることの大切

さを感じました。自給率の高  
い生活がどれだけ安心に結び  
つき豊かなのかを真剣に考え  
ました。

そこから農業への取り組み  
が始まりました。自分の作っ  
た野菜を妻が美味しく料理し  
てくれる幸せや楽しさも知る  
ことができました。

農業として生活を成り立た  
せるのは容易ではない事もわ  
かりました。自分たちは、素  
材を作り加工し、販売まで手  
掛ける6次産業化に可能性を  
見出しました。二人だけでで  
きることはたかが知れていま  
す。農園を支えてくれる仲間  
をインターネットで募集し、  
手伝ってもらっています。お  
礼に農園で採れた野菜を使っ

た美味しい昼飯を振る舞いま  
す。そんな仲間を「援農隊」  
と呼んでいます。小さい子ど  
もに土を触らせたい親御さん  
や、農家と繋がりをもちたい  
人が来園します。作る人と食  
べる人が繋がると、絆が生ま  
れます。

もし、また日本に一大事が  
起きたときには、絆で繋がっ  
た仲間を食べ物を分けたいと  
思います。こうした繋がりが  
今の日本にたくさんあれば、  
みんなが安心できるのと思  
います。

今は、生産者と消費者の距  
離が離れていて寂しく思いま  
す。援農隊のような取り組み  
をしやすいように行政も農家  
と手を組んでどうすればでき  
るのかを考えてみてはいかが  
でしょうか？飯山との絆が多  
くなれば、もし飯山が困った  
時に助けてくれるでしょう。  
やよい農園は農と食を通し  
て、飯山で暮らしているとい  
んなにも楽しくて幸せなんだ  
よ！ということを知れからも  
どんどん発信していきたい  
と思います。

## 農業委員会研修視察報告

先月、4月21日から23日  
本委員会は東北方面へ視察  
研修に出かけました。委員は  
12名、事務局2名が参加者  
でした。

視察先は宮城県山元町の  
農業生産法人、株式会社G  
RAと、秋田県横手市の農事  
組合法人 樽見内営農組合  
の2カ所です。

宮城県の巨理町と山元町  
は震災前はイチゴ栽培の適地  
で、「仙台イチゴ」を年間約  
3800ト生産していました  
が、震災時、津波が内陸3キ  
ロに達し95割のハウスが流され  
て、イチゴ栽培は壊滅しまし



た。  
GRAでは副社長の山本洋  
平氏より説明を受けました。  
『震災前の東北復旧ではなく、  
震災前を凌駕しグローバル  
ベルで勝負できる東北を創造  
することを目指す』が企業理  
念で、イチゴの栽培で復興を  
目指しました。

栽培は約1畝強のハウスで  
のコンピュータ制御による  
高設溶液栽培で行われていま  
す。施設資金の8割は国から  
補助されました。  
土から離れていて、野菜工  
場のような感じでした。  
研究開発は敷地内にある、  
農水省との連携事業「先端  
プロ山元研究施設」が中心と  
なっています。気候制御、生  
長点の温度管理、青・赤ダイ  
オードの光による成長コント  
ロール、CO<sub>2</sub>施用などの研  
究成果を共有して生産してい  
ます。

収量は(10坪あたり65  
7ト)従来の土耕栽培の2  
倍以上のようです。販路はJ  
Aを通さず独自に開拓して  
いて、イチゴ一粒を1000  
円で販売して話題となりま  
した。GRAではこのシステ

ムでの世界展開をめざしてい  
て2012年からインドで日本  
品種のイチゴ栽培を開始して  
います。

同様のシステムにより、隣  
の巨理町では大規模なハウス  
と選果場がつくられて巨理町  
イチゴ団地として復興してい  
ます。生産量も2500トま  
で回復しています。国の補助  
は100割で100億円を超  
えているとのことでした。

震災をばねに新しく試みら  
れた挑戦が実を結んでいるよ  
うで素晴らしいと思います。  
この地区の農地は津波の  
塩害のため、水田の土壌の入  
れ替えが全域で行われていま  
す。広くて平らな水田に新し  
い土が持ち込まれ、多数の重  
機が動いていました。

樽見内営農組合では、理  
事の渡部一男氏から話をし  
ていただきました。  
平成17年に樽見内営農組  
合は設立されていますが、平  
成19年の『水田・畑作経営所  
得安定対策』以前で、政策に  
うながされたのではなく、規  
模が小さく二種兼業農家が多  
いなど地域の事情で営農組合  
がつくられたとのことでした。

その後は、政策に積極的に  
呼応する活動をすすめる、農地

## あぜ道だより



農業委員  
小林 喜美治

### 飯山市農業の振興を 国の農政を転換し

作立ちの時期を迎え、今  
年の農作業もいよいよ本格的  
になる時期となりました。飯  
山市のような水田単作地帯  
の農業も、昭和30年代から  
の米作農業を基本に、酪農・  
畜産、農家民宿やキノコ栽  
培、近年ではアスパラ生産な  
ど、さまざまな知恵を尽くし  
て、飯山市の基幹産業として  
家族農業を基本にして営ん  
できました。

農業環境をめぐる情勢は、  
これまでも政府の「ネコの目  
農政」といわれるように、常  
に国の農業政策によつて翻弄  
されてきた歴史があり、現在  
も国押しつけの「農協改革」

を集積し補助金も活用され  
ています。  
栽培は特別栽培米中心で  
すがJAには批判的で、飼  
料米と輸出用米(シンガポ  
ール・ロンドンむけ)の販路は  
自主開拓しています。

『協業による生産性の向  
上』を目指す自主性、『結び』  
という集落のまとまりを維  
持する姿勢は、ともに大切  
だと思っています。  
どちらも、これからの農  
業について、考えさせられ  
ました。  
有意義な視察研修であつ  
たと思います。関係の皆さ  
まに感謝いたします。

情報委員 松本淳一



望めるような真の農政改革が  
求められていると思います。  
このたびは議会選出で農業委員  
会に参加させていただきました  
ことになりましたが、ここで  
の論議と合わせて、市議会  
でも取り上げ、意見を届けて  
いきたいと思っています。



秋津農村公園から静間を望む

## あしあと 3・4月の活動記録

- 3月10日 農地相談
- 10日 農業委員会役員会
- 25日 3月農業委員会総会
- 4月10日 農業委員会役員会
- 21日～23日 研修視察(宮城・秋田)
- 27日 4月農業委員会総会・学習会